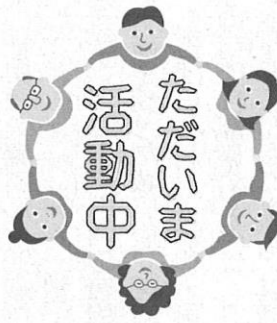


# 寄付食材で困窮者支援

「大盛りにする?」「どん  
どんおかわりしていいから  
ね」



カトリック甲府教会(甲府  
市中央)の講堂で、エプロン  
姿の女性ボランティアが温か  
い親子丼を手際よくどんぶり  
に盛りつけ、集まった人たち  
に手渡していく。

NPO法人「やまなしライ  
フサポート」は毎週木曜日の  
夕方に炊き出しを行い、生活  
困窮者を支援。食材はほとん  
どが農家などからの寄付で、



炊き出しの料理を手際よく盛  
りつけるボランティアたち

## NPO法人 やまなしライフサポート (甲府市)

献立はその日によって変わ  
る。取材に訪れた先月24日の  
メニューは親子丼、みそ汁、  
サツマイモのうま煮、さつま  
あげと大根の煮物、りんごな  
どで、40人前の大鍋は15分ほ  
どで空になった。

2年前から通う甲府市の男  
性(78)は腎臓を患い、治療費  
や家賃を支払うと、月10万円  
の年金はほとんど残らないと  
いう。「週1回でもおなかい  
っぱい食べられて、うんと助  
かる」。食後に「お土産」と  
して支給されるインスタント  
食品を受け取り、満足げに自  
転車に乗って帰っていった。

炊き出し当日は、看護師や  
キャリアコンサルタントも参  
加し、利用者の血圧や体重を  
測って健康状態を確かめた  
り、就職の相談に応じたりし  
ている。中山八十司理事長  
(78)は「食事の支援だけでな  
く、自立につながる活動を継  
続的に行うことで、生活困窮  
者の孤立を防ぎたい」と話し  
ている。

(伊丹理雄)

### 2週間の無料宿泊施設も

2008年のリーマン・シ  
ョック後、労働組合などが東  
京・日比谷公園で炊き出しや  
生活保護申請の支援を行った  
「年越し派遣村」が活動の原  
点。当時、甲府駅周辺でも路  
上生活者が増え、ボランティア  
アが不定期でおにぎりやみそ  
汁を提供し始めたという。

出しを行うようになり、11年  
10月にNPO法人格を取得。  
現在は約70人の会員や市民、  
学生らのボランティアが活動  
を支えている。17年度の炊き  
出しは50回に上り、延べ13  
81人が利用した。

「ライフ荘」(笛吹市)も運  
営している。非正規雇用が増  
えた近年は、派遣切りに遭い、  
生活に困窮する20〜30代の若  
い世代も目立つといい、中山  
理事長は「身近に困っている  
人がいれば情報を寄せてほし  
い。社会全体で温かく支え合  
うことが大切だ」と話す。

10年1月から、カトリック  
甲府教会で毎週木曜日の炊き

NPOでは、生活保護の受  
給や就職先が決まるまで、2  
週間を上限に無料で住むこと  
ができる緊急一時宿泊施設

現在、活動に協力してくれ  
る会員やボランティア、炊き  
出し用の食材を募集中で、問  
い合わせは事務局(055・  
241・2545)へ。